



## 答え合わせ・解説

問1	答え 2 長安	長安は、当時の中国の首都であり、碁盤の目状にきれいに区画された都市構造を持っていました。日本はこの長安の計画を参考にして、平城京を建設しました。中央に朱雀大路という広い通りを通し、東西の市（市場）を配置するなど、国家の権威を象徴する都市づくりが行われました。
問2	答え 2 東大寺	東大寺は、743年の大仏造立の詔により、聖武天皇が中心となって建立されました。この寺は全国の国分寺の総本山としての役割を担い、鎮護国家の象徴として位置づけられました。完成した大仏は、当時の人々の信仰心を集め、国家統一の精神的な拠り所となりました。
問3	答え 1 平城京	710年に飛鳥から遷都された平城京は、当時の中国である唐の都・長安を模して作られました。道が碁盤の目状に整備され、天皇が住む宮殿を中心に官庁が並び、本格的な計画都市でした。ここを拠点として、全国の国司を指揮し、租税を徴収する律令政治が行われました。
問4	答え 2 鑑真	鑑真は唐で名高い高僧でしたが、日本の僧侶からの要請に応え、5回もの失敗や失明という苦難を乗り越えて6回目ようやく来日を果たしました。奈良の東大寺に戒壇を築き、多くの僧に戒律を授けました。また、その後には唐招提寺を開いています。
問5	答え 4 国司	国司は、国府を拠点として、租庸調の徴収や公共事業、裁判など地方における行政実務を一手に担いました。これにより、中央政府の命令が地方のすみずみまで行き届く仕組みが完成しました。
問6	答え 3 万葉集	万葉集は、約4500首の歌を収めた日本最古の歌集です。特徴は、天皇や貴族だけでなく、防人や農民といった一般庶民の素朴で力強い感情がそのまま記されている点にあります。防人が詠んだ「防人の歌」には、国を守る誇りと家族への思慕が混ざり合い、当時の社会の現実がリアルに表現されています。
問7	答え 4 国司	「国司」は、朝廷から地方の「国」に派遣される長官です。その国の政治・裁判・軍事など全般を管理する非常に重要な職務でした。任期があり、現地の実務を担う郡司を指揮して効率的な地方支配を行いました。
問8	答え 4 710年	710年、元明天皇は藤原京から平城京へ都を移しました。平城京は、大陸の都にならった碁盤の目状の区画（条坊制）を持ち、宮殿を中心に政治機能が集約された都市です。これにより、天皇を中心とした国家の威信を内外に示すとともに、官僚機構による効率的な統治が可能となりました。
問9	答え 4 正倉院	正倉院は校倉造という独特の建築様式で建てられ、湿度の変化に応じて木材が伸縮することで内部の環境を一定に保つ工夫がなされています。ここには、天皇の愛用品だけでなく、当時の楽器や文書、世界各地からの貢ぎ物など、天平文化の粋が集められています。
問10	答え 4 防人	防人は、大和朝廷が九州地方の防衛のために配置した兵士です。主に東国（現在の関東地方）の農民から徴兵され、長期間の任期で現地に派遣されました。万葉集には、故郷を離れる寂しさや任務の過酷さを歌った防人の歌が多く収められており、当時の人々の苦しい生活の様子を今に伝えています。
問11	答え 2 公地公民	公地公民とは、すべての土地と人民を国家が直接管理し、公的なものとする原則です。これにより戸籍を作り、国民に田地を分け与えることで、税を徴収する仕組みを整えました。
問12	答え 3 東大寺	聖武天皇の命により、各国の国分寺を束ねる総本山として建設されました。特に本尊である大仏の建立は、当時の国家プロジェクトとして非常に大きな規模で行われました。
問13	答え 1 阿修羅像	奈良の興福寺にある「八部衆像」の一つで、乾漆造という手法で作られています。少年のように憂いを含んだ繊細な表情が特徴で、日本だけでなく世界的に非常に高く評価されている傑作です。
問14	答え 1 平城京	平城京は、710年に元明天皇によって奈良の地に建設された都です。唐の都である長安をモデルにして設計され、天皇を中心とした政治体制を整えるための国家の拠点となりました。計画的に道路が配置され、貴族の邸宅や立派な寺院が立ち並び、当時としては非常に高いレベルの都市機能を持っていました。
問15	答え 2 聖武天皇	聖武天皇は、仏教の慈悲の力によってこの苦難を乗り越えようと考え、「鎮護国家」の思想に基づき、全国に国分寺と国分尼寺を建てることを命じました。また、東大寺に巨大な大仏を造るなど、壮大な国家プロジェクトを主導しました。その信心深さとスケールの大きさは天平文化の頂点を示しています。
問16	答え 3 墾田永年私財法	政府は、743年に「墾田永年私財法」を制定しました。これにより、新しく開墾した土地の私有が永久に認められるようになりました。それまで制限されていた土地所有が可能となったため、人々は競って開墾を行い、生産性を高めようしました。